

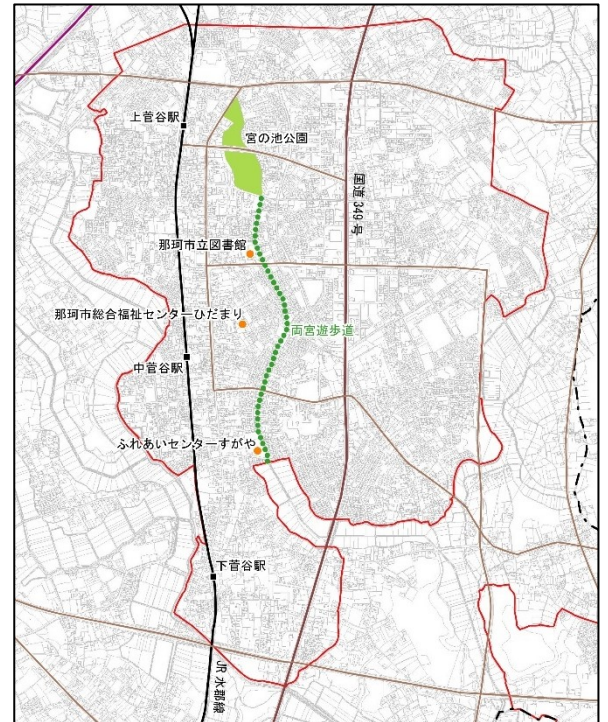
両宮遊歩道を活用したまちづくりについて

◆ 両宮遊歩道の概要

両宮遊歩道は、菅谷市街地のほぼ中央を南北に縦断し、遊歩道の北端には宮の池公園、南端にはふれあいセンターすがやが位置しています。また、沿道には那珂市立図書館や那珂市総合保健福祉センターひだまりなどの公益施設が立地するほか、国道349号バイパス沿道には商業施設も立地し、住居系市街地としての利便性の高い地域に位置しています。

【両宮遊歩道の整備概要】

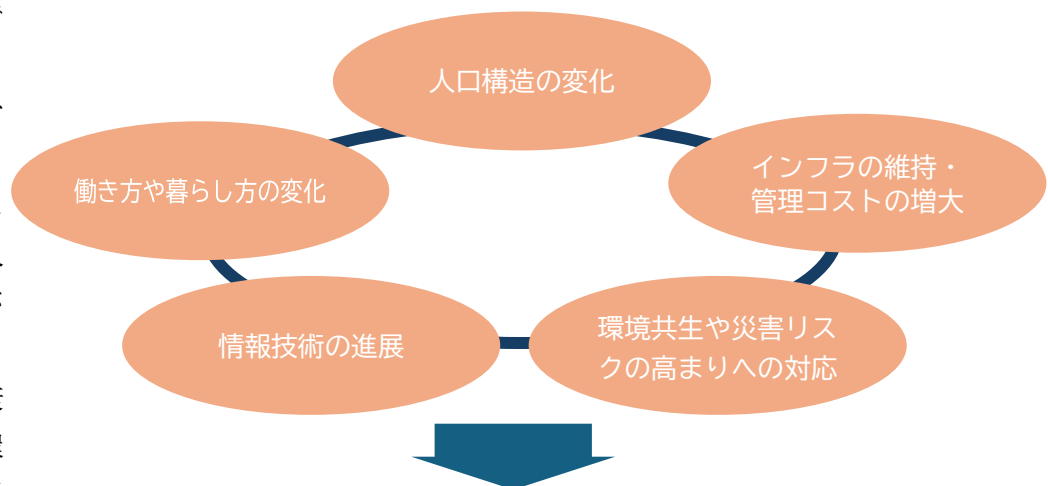
- 両宮排水路のうち市街化区域内の総延長約1,600mに、浸水被害を防ぐためボックスカルバートを布設し、その上部に地域住民の生活環境の向上のため遊歩道を整備。
- 平成6年度から平成9年度に、下流から約500mを整備し、ベンチ・水飲み場・植栽・トイレ等を設置。
- 平成22年度から平成26年度に、宮の池までの残り約900mを整備して、路面の着色やベンチを設置。



■ まちづくりの動向を踏まえた位置づけ

人口減少が進む中、都市計画では都市圏域の拡大から集約化に転換しています。既成市街地においては、既存のインフラの活用、空き家・空き地などの利用促進により、持続可能なまちづくりや人口密度の維持に取り組むことが重要となっています。

また、高齢化が進む中で、健康増進に向けた歩いて暮らせる環境づくりとともに、情報技術を活用した移動手段、環境負荷の少ない自転車の利用促進なども期待され、両宮遊歩道は菅谷市街地における「移動利便性」、「景観」、「賑わい」の3つの役割を担うことが期待されます。



【両宮遊歩道に期待される役割】

- ①市街地における徒歩や自転車などでの移動を確保する「移動軸」
- ②市街地における緑や景観を創出する「景観軸」
- ③沿道の公共施設などと連携した「賑わい軸」

◆ 現在の両宮遊歩道に対するご意見

両宮遊歩道を活用したまちづくりを検討するため、令和6年度に、両宮遊歩道を利用している市民を公募し、ワークショップによりご意見を伺うとともに、社会実験（ラフェット・デラール）を開催し、来場者や沿道にお住まいの方のご意見を伺いました。



■ワークショップでの主なご意見（抜粋）

全3回のワークショップでは、「遊歩道の現状の把握と課題の共有」、「遊歩道の機能イメージの検討」、「遊歩道を利用した賑わい創出の方針及び留意点」を整理しました。

回数	内 容
第1回 R6.10.5(土)	①ノルディックウォーキング体験 ②ワークショップ ・ノルディックウォーク体験について ・両宮遊歩道について
第2回 R6.12.14(土)	①賑わいづくり社会実験の結果についての報告 ②両宮遊歩道を活用した賑わいづくりについて
第3回 R7.1.18(土)	①活用の基本方針について ②活用に向けた取り組みについて

項 目	ワークショップでの意見（抜粋）
①歩いてみた感想	○舗装の凹凸が多く歩きにくく見た目も良くない ○自転車と歩行者を分離する工夫がほしい ○遊歩道と住宅がとても近いことを知った ○みんなに遊歩道の良さを知ってほしい ○道路を横断する箇所が多い
②歩きやすくするために、あったら良いと思うもの	○休憩できるお店 ○木陰や日陰（特に北側沿道） ○図書館前に横断歩道（迂回しないといけないのは不便） ○トイレ付近の見通しを良くする ○芝生を利活用（キッチンカーやコミュニティ農園）
③どんな遊歩道になると良いですか	○近隣の負担にならない程度のイベントが開催されると良い ○若い人が楽しめる遊歩道 ○一人でゆっくりしたいときにリフレッシュできる場所 ○買物ついでに散歩、毎日歩いても飽きない ○素敵なお店もたくさんあるから何かやらなければもったいない
④遊歩道の好きなところ、遊歩道に残したいもの	○季節ごとに咲く花、桜と梅の並木道 ○石碑や現代的なオブジェ ○ぼーっとできるベンチ ○車を気にせずゆっくり歩ける ○帰り道に子どもたちが楽しそうに遊んでいる

【ワークショップでイメージを考えました】

○ワークショップでは、既存の使われ方や周辺環境を鑑み、3つのゾーンに分けて考えることが提案され、それぞれについて機能とそのイメージを選択しました。（ゾーンはp 6 参照）

宮の池公園

健 ペ 憩 景

1ゾーン

機 能	イメージ（こんなふうになって欲しい）
災	ベンチトイレ
便	図書館にカフェ
憩	四季が感じられる

2ゾーン

機 能	イメージ（こんなふうになって欲しい）
移	田んぼに柵 舗装の道 模様
子	近くの公園へアクセスしやすい
遊	あずまや 児童館

3ゾーン

機 能	イメージ（こんなふうになって欲しい）
憩	池をきれいに
自	四季が感じられる
災	シンプルに舗装

遊歩道の機能

機 能	考 え 方
遊 び	子どもたちが安全で自由に遊べる空間や施設がある。
子育て	親子や家族で、散歩や遊びに利用できる空間や施設がある。
自 然	草木などの植物が多く自然に触れることができる。
景 観	植栽や花壇などがあり、市街地内に緑の景観が整っている。
防 災	災害発生時には、車いすの人なども避難路として利用できる。
賑わい	イベント開催やキッチンカーなど多目的な空間として利用できる。
憩 い	ベンチやカフェなど散歩しながらリフレッシュや休憩ができる。
健 康	ウォーキングなど日常的な健康づくりができる。
ペット	ペットと一緒に散歩できる環境がある。
移 動	徒歩や自転車、A I モビリティなどで市街地を移動できる。
便 利	普段の生活に必要な小さなお店がある・行くときに利用できる。

■社会実験に関するご意見

両宮遊歩道とその沿道地域の魅力向上や賑わいづくりに繋がる取り組みを検討するため、令和6年12月1日に、両宮遊歩道を活用したクラフトショップやキッチンカーの出店によるイベントを開催しました。

来場者意向調査のまとめ	近隣住民意向調査のまとめ
○遊歩道の活用したイベントの開催については、肯定的な意見が多い。 ○イベントの内容によっては、30歳代、40歳代の女性の誘客が期待できる。	○両宮遊歩道や沿道において賑わいづくりを行うことについては、約7割の方が肯定的な意向を持っている。 ○一方で、今回の社会実験の結果、騒音や話し声、においなどに留意する必要があることが指摘されている。

意向調査のまとめ

- 両宮遊歩道を活用した賑わいづくりについては、来場者、近隣住民とも肯定的なご意見が多い。
- 一方で、遊歩道沿道が住宅地となっているため、音楽や話し声、においなど、イベント開催に伴い発生する事柄についての配慮が必要である。

◆ 両宮遊歩道の考え方

- 両宮遊歩道の活用に向けたイメージの策定においては、両宮遊歩道の利用を促進するため、ワークショップで3つのゾーンが設定されたことから、ゾーンごとにテーマを持たせた使い方を促進します。
- 両宮遊歩道が菅谷市街地における歩行者・自転車等の南北系の移動軸として、さらには周辺地域からの利用を促進するため、市街地との一体性の向上を目指します。
- 「移動」という目的に加え、「賑わい」、「交流」などの機能を付加することにより、菅谷市街地に住む人々の交流促進軸としての役割を持たせ、遊歩道を活用した市街地の価値の向上を目指します。
- そして、このような取り組みを、地域住民、民間事業者、行政が連携して取り組むことにより、将来に向けてより魅力ある両宮遊歩道を育てていきます。

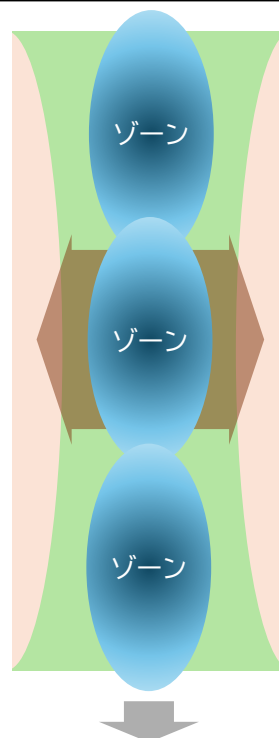
現在の遊歩道のイメージ

- 遊歩道が単体で利用されている。



将来の遊歩道のイメージ

- 遊歩道内でゾーンを設定し、特徴ある空間を演出する。
- 周辺と連携し、遊歩道が市街地にもたらす効果に幅を持たせる。



菅谷市街地の交流を創出し、地域住民、民間事業者、行政が連携することにより、両宮遊歩道を育てていきましょう。

◆ 両宮遊歩道活用のテーマと基本方針

両宮遊歩道は、沿道に公共施設や生活利便施設、公園等があり、菅谷市街地を縦貫する遊歩道として、徒歩や自転車で移動できる空間となっています。

今後もこのような利用価値に注目しつつ、市街地の魅力を高める資産として活用するとともに、災害時には、全ての人が安全に避難施設などに移動できる避難路としても利用できるよう、普段から遊歩道に親しみ、全ての人が安全に利用できる遊歩道としていきます。

遊歩道沿道においては、遊歩道の利用者や周辺住民の生活利便性を高めるため、ライフスタイルの変化や周辺住民の意向を確認しながら、サービス機能の導入についても検討します。

このような方針に基づき、両宮遊歩道の活用を目指すため、次のようなテーマを設定します。

【活用のテーマ】

いつでも心地よく使えるすがやの空間づくり

～ ふだん使いできる遊歩道で、暮らしをもっと快適に ～

■基本方針－１ 遊歩道沿道との一体性創出による魅力の向上

両宮遊歩道は、単体でみると市街地南北の移動を担う線のインフラです。しかし、コンパクトシティの形成や健康づくりなど、近年のまちづくりのテーマを踏まえると、沿道施設との連携による利用機会や利便性の創出が重要となることから、沿道に立地する既存施設との連携を図るとともに、沿道地域における土地利用誘導のあり方についても検討します。

■基本方針－２ 明確な個性を持った歩行者空間の創出

両宮遊歩道は、整備状況や沿道土地利用が異なっています。また、散策と賑わい創出機会となるイベント空間の共存を図るためには、遊歩道の整備状況を踏まえたイベント空間の設定が必要となることから、次のような３つのゾーンを設定し、それぞれの個性を明確にした歩行者空間を創出します。

◆ゾーン１ 図書館や宮の池公園を活かした賑わいを創出するゾーン

◆ゾーン２ 沿道の公共施設と連携した利用圏域の拡大を図るゾーン

◆ゾーン３ 散策空間としての価値向上を図るゾーン

■基本方針－３ ソフト施策の充実による利用促進と「まちの魅力」の創出

人口減少が進む中で、既成市街地への集約化は重要なテーマとなっています。菅谷市街地の中央に位置する両宮遊歩道は、「まちの魅力」を創出するインフラであり、このインフラを生かした既成市街地における賑わい創出、徒歩や自転車での利便性の向上に向け、ハード施策とともにソフト施策の充実に取り組みます。

◆ 両宮遊歩道の活用に向けた取り組み

(1) 遊歩道全体における取り組み

①舗装の改善	○舗装の劣化がみられている遊歩道南側を中心に、段差の解消や舗装の打ち替えを行うとともに、車いすやベビーカーなどでも安全で快適に移動できるようにします。
②利用者の安全性の向上	○子どもや高齢者が利用しやすいよう安全性の向上を図るとともに、歩行者、車いす、ベビーカー利用者と自転車が共存できるよう、歩行者と自転車の通行帯の区分を行います。
③図書館や市道の横断部の安全性の向上	○遊歩道として安全に利用できるよう、図書館や市道の横断部について、安全性の向上を図ります。図書館横断部については、横断箇所についても検討を行います。
④新しい技術を活用した移動空間としての活用	○高齢化などへの対応策として、近距離の移動を支援するマイクロモビリティ（歩行者と同じような速度で動くもの）も注目されています。そのため、歩行者中心の移動軸としての性格を基本としながら、多様な移動手段が利用できる空間としての活用に向けた利用についての研究も考えられます。

(2) ゾーン1(宮の池～図書館)における取り組み

①賑わい創出エリアとしての活用	○図書館敷地や遊歩道敷地を活用した賑わい創出を目指します。活用にあたっては、今回の社会実験で示された音やにおいなどに配慮しながら、年に数回程度の周辺環境に調和したイベントが開催できるよう、図書館との一体性確保の検討や、歩行者の動線とイベントスペースなどが共存できる空間づくりを検討します。
-----------------	--

(3) ゾーン2(図書館～公衆トイレ)における取り組み

①周辺施設との一体性の向上	○子どもや子ども連れの家族などが利用しやすいよう、遊歩道周辺に位置する公共施設（公園など）との一体性を向上し、遊歩道がある市街地として、利用圏域の拡大を目指します。
②利用者の快適性の向上	○利用者の快適性を高めるため、広場として利用されている沿道の市有地のあり方について検討します。

(4) ゾーン3(公衆トイレ～ふれあいセンターすがや)における取り組み

①散策空間としての価値の向上	○既存の植栽や修景施設を活用し、四季を感じながら散策できる空間づくりを目指します。
----------------	---

(5) 遊歩道沿道における取り組み

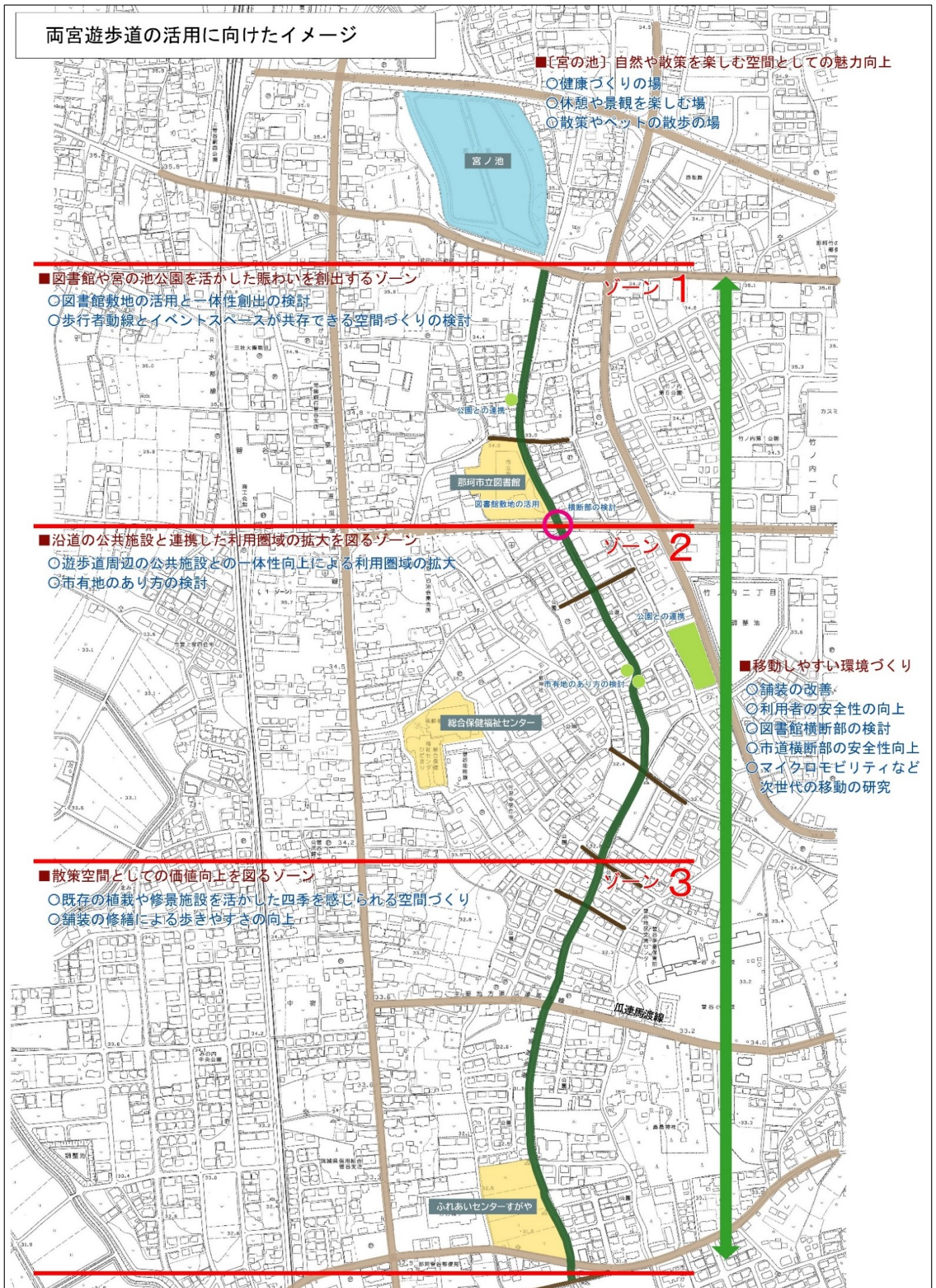
①沿道における土地利用のあり方の検討	○現在、両宮遊歩道沿道は、住居系以外の土地利用が制限されています。沿道における賑わいや遊歩道利用者の利便性の創出に向けては、サービス系施設の立地も期待されることから、人口減少や高齢化を踏まえた菅谷市街地の将来像を明確にするとともに、沿道における土地利用のあり方について検討します。
②宮の池公園や図書館など、沿道の拠点施設の魅力向上の検討	○宮の池公園や図書館は、両宮遊歩道を利用する際の目的となる施設であることから、利用者ニーズを考慮しながら、施設の魅力向上について検討します。

両宮遊歩道の活用に向けて、遊歩道の整備等の「ハード面」および、遊歩道の使い方の提案等の「ソフト面」の両面で、できることから計画的に取り組むこととします。

また、賑わいの創出にあたっては、今後、地域住民のニーズに見合うかたちでの民間活力を活かした取り組みも考えられ、それを担う人材の確保や育成が重要です。

地域住民・民間事業者・行政など関係者の全てが連携し、今後の両宮遊歩道を活用したまちづくりの実現を目指していきましょう。

両宮遊歩道の活用に向けたイメージ



【お問い合わせ】

那珂市建設部都市計画課

電話029-298-1111（代表）